

上毛新聞

館林・板倉
明和・千代田
邑楽

2016年
9月8日

きょうの紙面

影絵上演、クイズ楽しむ(2)
食欲そそる「パスタ」(8、9)
写真で見る「温故知新」(12)

©上毛新聞社 2016年

サイエンス、柔道、剣道など7種目



放課後の児童を預かる館林市の北小学舎（篠木日出夫学舎長）の特別教室が開かれ、学舎に通う約50人が剣道や柔道、英語、書道、サイエンス教室など7種類に取り組んだ。

▼スライムの動きを楽しむ子どもたち
▲磁性スライムを作ったサイエンス教室



放課後教室 多彩な体験

館林 北小学舎の児童50人

しい正座の座り方や礼儀作法、面打ちを指導。柔道は館林柔道部顧問を務める6段の内田靖人さん（諏訪町）が2回の体験で受け身の基本動作を手ほどきし、児童は頭を守りながら体から畳に落ちる練習に取り組んだ。

受け身の動作を体験した寺崎美唯亜さん（一小3年）は「頭を守る落ち方が分かった」、横田倅之介君（同）は「命に関わるので、受け身が大事だと分かった」と真剣な顔だった。

篠木さんは「実際に体験することはとても大切。いろいろな体験を楽しみながら、将来の進路選択に役立ててほしい」と話していた。

北小学舎は2012年に開校したNPO法人が運営する放課後子ども教室。教員や保育士の経験者を中心に子どもを預かっている。



受け身の練習に取り組んだ柔道教室



剣道では面打ちを体験

サイエンス教室は篠木学舎長が指導し、洗濯のりと砂鉄、ホウ砂を混ぜて黒色の「磁性スライム」を作った。子どもたちは強力なボタン形の磁石を使ってスライムをアメーバのように自由に動かしたり、コップからスライムがゆっくり落ちていく様子を歓声を上げながら見て楽しんだ。

堀越壘君（館林一小4年）は「磁石にくっつくのが面白かった。家に帰ったらお兄ちゃんやお姉ちゃんにやって見せたい」と喜んでいました。

4日間にわたって行われた剣道体験では、市内や周辺自治体のベテラン剣士でつくる「響会」（石沢章司世話人）のメンバーが、正